



大澤豊 監督
【「日本の青空」
(07年)の監督】

生命の尊厳を尊重する

前作「日本の青空」の上映成功を願って全国行脚をした際、多くの会場で「ぜひ第2弾をつくってほしい」という要望を頂いた。映画の作り手としては望外の喜びであり、そのエールに押され、つくられたのが今回の「いのちの山河〜日本の青空II〜」である。

連書籍を渉猟し、1年近く推敲を重ねながら、盟友・宮負秀夫氏が脚本化した。ご存知のように、岩手県の寒村・沢内村（現西和賀町）は、自分たちで命を守った村であり、深沢村長のリーダーシップのもとに、宿命と諦めていた「豪雪・多病多死・貧困」の三悪に村民ぐるみで立ち向かい、見事に克服した村である。

また、人間はみな自由で平等、人間の命に格差があってはならないと、「生命行政」に徹した深沢村政は、全国の自治体で初めて60歳以上の村民と乳児の医療費を無料化し、やがて、全国初の乳幼児死亡率ゼロの偉業を達成する。（以下略）

「いのちの山河〜日本の青空II〜」松戸上映実行委員会

代表委員 戸塚 章介

中村 大善

森川 壽末

事務局長 樋口 茂雄

【実行委員会参加団体】

○豊かな高齢期をつくる松戸市連絡会
○新日本婦人の会松戸支部
○かわせみ班
○全日本年金者組

合松戸支部
○千葉土建松戸支部
○松戸市老人医療と福祉を守る会
○やわら木苑
○やわら木苑友の会
○五香憲法九条を守る会
○六・高九条を守る会

【賛同団体】

○小金原憲法九条の会
○松戸教職員組合

試写会を観て・・・すこやかに生まれ、すこやかに育ち、すこやかに暮らそう。

佐藤 良治

「いのちの山河」が豪雪・多病・貧困を信念で克服した沢内村の話だと知った時、21年前「劇団銅鑼」公演で観た「燃える雪」のことを思い出し、あの感動を沢山の人に伝えたいと思いました。

社会保障費がどんどん切り込まれ、福祉が商業化され自己責任にされていく。子どもが生めない夫婦、行き場のない高齢者。そうしたイメージが私の頭にありました。村長に就任した深沢晟雄は、「すこやかに生まれる」「すこやかに育つ」「すこやかに老いる」という目標をたて向かって行きました。人間の命や健康は人間の尊厳の根本であって、それに格差がつけられることは絶対に許されな

い・・・と。

本来は国がやるべきことをやっ

ていないから沢内村がやる。お金があつてやるのは誰でもできるが、お金のない中で道のない所に道をつける。「カマド返し」とあだ名をつけられながら、冬の山伏峠をブルトナーで除雪して定期バスを通しました。

1960年、全国に先駆けて老人（65歳以上）の医療費無料化を断行。1961年、60歳以上と乳児（1歳未満）に医療費無料化を拡大実施。1962年全国で初めて乳児死亡率ゼロを達成、全国から注目を浴びました。

59歳で亡くなった深沢晟雄の物語を多くの人に観ていただき、憲法25条の生存権保障義務をもう一度読み返してみようではありませんか。

（千葉土建一般労働組合前委員長）

お願い

1、映画「いのちの山河」の松戸上映の賛同団体を募っています。賛同団体に加わってくださる方はぜひご連絡ください。

2、前売券のことなどのご相談は、最寄の実行委員の方にお話くださるか、若しくは、森川（047-386-0510）、または、樋口（090-2222-2769）までお電話ください。